

『二十四の瞳』に憧れて～ 教師から教師を目指す子供たちへ宛てたメッセージ



小説『二十四の瞳』の舞台とも言われる小豆島・岬の分教場。ここは“教育の原点”として、今でも多くの学校の先生達がこの地を訪れます。『二十四の瞳』を理想に懸命に子供達と向き合おうと奮闘する教師達、そして教師OBたち。この地を訪れた先生から子ども達にあてたメッセージを岬の分教場のボードに書き残してもらおうと2013年9月15日（日）岬の分教場にて「教育シンポジウム」を開催し、女優・高峰秀子さんの夫で脚本家・映画監督の松山善三さん・作家で養女の斉藤明美さん始め、島内外から教員・教員OB約80名にメッセージを戴きました。それから現在で9枚目となっており、一挙公開展示を行います。

◆期間 ～ 令和4月11月14日（月）
※期間は変更となる場合がございます。

◆場 所 岬の分教場 教室
◆料 金 鑑賞無料 （※但し、岬の分教場入場料が別途必要）
岬の教場入場料 大人350円・小人180円
二十四の瞳映画村とのセット券 大人1,000円・小人500円
◆お問合せ 二十四の瞳映画村 0879-82-2455

メッセージ一部

未来の日本を担う子供たちを育てる尊い仕事に就けた事に感謝。教育の原点に立ち返る事が出来、新たなエネルギーが湧き上がりました。この感動を胸に日本を担う子供達を教える若い教師達へエールを送ります。

(奈良県教員)

何人の子供達と会っただろう…。
どれだけ気持ちを伝えただろうか…。
今、77才にて思う事。君たちに会いたい。
恩師のあとを追って40年の教師生活！
子供達の心を瞳をいつまでも忘れない
先生になって。

(M・F)

教員は情熱!! 生徒の輝く瞳が全ての原動力、もう30年以上も経ちますが、卒業生に出会うと、若き日の自分に返る事ができます。我が息子も教壇にたちました。情熱に満ちた教師になってほしいものです。頑張れ!
未来を導くのは君たちの若い力です。

(M・Y)

42年前、私もこの映画のような21人の子供達の担任でした。とっても楽しく過ごしました。昨年、その子達が初めて同窓会を開いてくれました。みんなは50才になっていました。懐かしかった。

(和歌山県教員)



岬の分教場



『二十四の瞳』の舞台となった田浦分校。明治35年（1902）8月田浦尋常小学校として建築された葺平屋建校舎で2教室と教員住宅を含んでいます。その後、明治43年から苗羽小学校田浦分校として、3教室を使用していましたが、昭和46年（1971）3月閉鎖されました。昭和29年松竹映画「二十四の瞳」（監督：木下恵介/主演：高峰秀子）のロケに使用され、一躍有名になり、訪れる人が絶えません。教室には当時のままの机やオルガン、子どもたちの作品などが残っており、椅子に腰掛けて目をつむるとありし日の想いでのよみがえるでしょう。

【入場料】

- ・岬の分教場入場料 大人350円・小人180円
- ・二十四の瞳映画村とのセット券 大人1,000円・小人500円

